

## 第 530 回 I B C 番組審議会

- 1 . 開催日時 平成 20 年 4 月 2 2 日 ( 火 ) 午前 11 時
- 2 . 開催場所 デジタルセンター 3 F Dホール
- 3 . 委員の出席
- |         |   |
|---------|---|
| 委員数     | 1 1 名                                     |
| 出席委員    | 8 名                                       |
| 出席委員の氏名 |   |
| 委員長     | 田代 高章                                     |
| 副委員長    | 宮澤 徳雄                                     |
| 委 員     | 伊藤 史典 大村友貴美<br>河村 泰信 工藤 和彦<br>熊谷志衣子 澤口たまみ |
| 欠席委員の氏名 |   |
|         | 小林 英男 小松 務<br>矢佐 俊幸                       |
- 会社側出席者
- |       |            |
|-------|------------|
| 阿部 正樹 | 代表取締役社長    |
| 川島 敬司 | 常務取締役      |
| 菅野 秀樹 | 取締役テレビ営業局長 |
| 柴田 継家 | 報道局長       |
| 川上 隆  | ラジオセンター長   |
| 鎌田 英樹 | テレビ編成局長    |
| 大柏 良  | 制作部ディレクター  |
- 事務局
- |       |            |
|-------|------------|
| 馬場由紀子 | 番組審議会事務局長  |
| 小笠原 勉 | 番組審議会事務局次長 |
- 4 . 議 題 『ふたり・・・世界と戦う！  
カーリング・チーム岩手 世界選手権へ』

## 5 . 議事の概要

### <委員の主な発言>

- ・相手のストーンを弾き飛ばせば勝つのかと思ったら、いろんなルールがあって勝つための布石、作戦が大事なんだとカーリングそのものを勉強したような番組だった。
- ・専用のリンクがない岩手チームが、世界の舞台で活躍したことに関して「世界でも戦えるんだ」という夢と可能性を与えてくれたが、カーリングをもっと岩手県人に認知させることが必要だと思う。
- ・カーリングのルールは一般の人が見ても分かりにくいのではないか。サークルの中に入っていくストーンの駆け引きがある。上から見ないと分かりにくいところもある。どうしたら点数になるのか説明が欲しかった。
- ・カーリングの魅力を感じたのは試合の緊張感です。それがもっと伝われば良かった。さらに世界大会で3勝した感動も余り伝わってこなかった。
- ・ルールがわかりにくかった。マイナースポーツではないと言いながら、やはり認知度の低さを否定できないところはあると思うので、そのあたりの工夫があれば良かった。

### <社側>

- ・二人がミックスマックスの日本選手権で優勝するところまでは想定していませんでした。世界選手権に取材に行くことを事前に想定していないので、前半は記録的になり、日々のニュース映像などを使いながら構成する形になりました。
- ・二人が厳しい職場環境の中で練習している部分があってこそ、世界に行く大変さが出てくるだろうと思い、取材をしたかったのですが、スケジュール等の関係で叶わなかったことがやはり心残りではあります。
- ・オリンピックの強化選手を破っての世界選手権出場でしたが、実力的にはまだ劣る部分もある。今回コーチとして参加した敦賀選手は「チーム岩手の二人はカーリングに対する情熱がすごい。見習わなければならない」と言っていた。世界で3勝したこと、そしてもっと頑張れば二つの敗戦を乗り越えてもっと上に行ける可能性がある。苫米地選手の「もっと頑張れば上に行ける」というインタビューに自分の気持ちも込めて制作しました。